いもち病（Blast）

Pyricularia　oryzae

葉に発生したいもち病

穂に発生したいもち病

発生生態

種籾の発芽当初から刈り取り時まで発生します。葉に発病した場合は紡錘形の病斑を生じ、また穂に発病すると籾が充実せず、収量や品質が低下します。

６月から7月にかけて、低温で日照不足の時や窒素過多で葉色の濃い時は発病しやすくなります。

防除対策

病原菌は籾について越冬するので、種子消毒を行います。窒素多肥や密植を避けます。また補植用苗を放置すると葉いもちの発生源となるので、補植後速やかに残り苗を処分します。特に山間、山沿いの水田ではほ場をよく観察し、早期防除に努めます。

農林センター環境部 0771－22－6494